

METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



有限会社

金田商事

# 2019年度環境経営レポート

(対象期間:2019年 10月~2020年 9月)



発行日: 2021年3月4日  
改定日: 2021年8月5日

有限会社金田商事 核心的価値  
「やり方」より「あり方」が重要

経営理念

人と資源の活躍創造

当社は、企業活動を通じて、  
人と資源が活躍する世界を創ります。

セルフイメージ

当社は、『資源ご処分解決業』

資源の課題解決と価値創造

当社は、資源の価値を再認知し、「もったいない」を自ら体現する企業であり、  
当社が持つノウハウ・企業間リレーションシップをフル活用して、資源全般の売買、  
処理を行い、お役に立つ企業を目指します。

カンパニースピリッツ

『一日一笑』、『一日ひと汗』

『イチありがとう』

んでもって、『1 チャリンチャリン』

そして、幸せを掘り当てよう！！

理想の社員像

強く、優しく、おおらかで、自ら<sup>ひらくひと</sup>拓く人であれ！

# 2019年度 環境経営レポート 目次

- I. 〈環境経営方針〉…………… P3
- II. 登録事業所の概要……………P4
- III. 主な環境負荷の実績……………P9
- IV. 環境経営目標及びその実績……………P9
- V. 環境経営計画の取組結果とその評価、  
次年度の環境経営計画……………P11
- VI. 環境関連法規制等の遵守状況……………P17
- VII. 代表者による全体の評価と見直し・指示…P18
- VIII. その他の取り組みを紹介……………P19

## 《有限会社 金田商事 環境経営方針》

### 〈環境経営理念〉

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探索・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める経営を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境経営方針を定めます。

### 〈環境保全への基本方針〉

1. 次の事項について環境経営目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
  - ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
  - ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
  - ③節水による水資源使用量の削減。
  - ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正な資源循環を推進するため、取扱量の増加を目指す。
  - ⑤地域貢献活動の実施。
  - ⑥受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮。
2. 環境関連法規制や弊社が約束したことを遵守いたします。
3. 環境への取組みを環境経営レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日  
改定日：2019年10月17日

取締役社長

金田 大地

環境経営方針を表すキャッチフレーズ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、  
新たなる価値の創造を通して、社会に貢献する。」  
「まずは、身近な金属から。」

## II.登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事  
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社:兵庫県伊丹市口酒井二丁目7番21号 工場も同所在地

(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金1,600万円

(5) 認証・登録の対象組織・活動

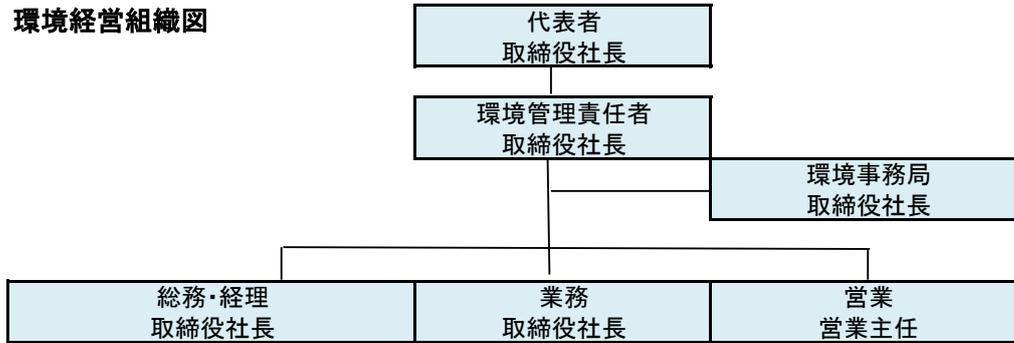
登録事業者名:有限会社金田商事

対象事業所:本社

活動:金属くず商(金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買)、古物商(古物の売買)、  
産業廃棄物収集運搬業

(6) 事業年度 10月～翌年9月

(7) 環境経営組織図



- ・株主 1名。
- ・取締役(役員) 1名
- ・監査役の選出義務なし。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>・環境経営の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境経営計画・取り組みの実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開 (事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営システムの実施</li> <li>・自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>・特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>・テスト、訓練を実施、記録の作成</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

(8) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708  
担当者 同上

(9) 事業内容

金属くず商(金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買)、古物商(古物の売買)、産業廃棄物収集運搬業

(10) 事業の規模

基準年度: 2017年度 対象年度: 2019年度

総売上高 2.55億円 (2019年度)  
主要商品取り扱い量 6,341t (2019年度) ※事業年度期末時点

活動規模	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
取り扱い数量	t	6885.6	7141.9	7063.6	6974.5	6341.1
内訳: 金属スクラップ	t	6881.7	7117.0	7031.6	6937.9	6283.5
内訳: 産業廃棄物 (収集運搬)	t	3.9	24.9	32.0	36.7	57.6
売上高(税抜)	百万円	231	339	401	331	255
従業員	人	5	5	5	6	6
床面積	m <sup>2</sup>	580	950	950	950	950
保有貨物車両台数	台	4	4	4	5	5
保有乗用車両台数	台	2	2	2	2	2
保有荷役車両台数	台	4	5	6	6	6

(11) 保有諸許可

・ 金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

・ 古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

主たる区分: 事務機器類

扱い品目: 自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

・ 産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 02700132377号

許可の年月日:平成29年1月22日

許可の有効年月日:平成34年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分: 積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

- 1.廃プラスチック類 2.紙くず 3.木くず 4.繊維くず 5.ゴムくず 6.金属くず  
7.ガラスくず 8.がれき類 (石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上8種類

2.許可の条件 なし

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

平成29年1月04日更新許可

4.府内の政令市による積替え許可の有無 無

5.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 有

以下余白

(12) 施設の状況  
保有設備

	車両詳細	台数	使用燃料・動力	備考
運搬車両	10t積み平ボディ車	2	軽油	
	7t積み平ボディ車	1	軽油	
	4t積みユニック搭載平ボディ車	1	軽油	
	4t積みアームロール車	1	軽油	
荷役車両	2.5t揚力 フォークリフト	3	軽油	取引先構内車を含む。
	2.5t揚力 フォークリフト	1	LPG1台	取引先構内車。
	油圧式バックホー(0.25㎡クラス)	1	軽油	
	油圧式バックホー(0.7㎡クラス)	1	軽油	10月新車入替え
乗用車両	普通乗用車	1	ガソリン	ハイブリット車
	軽自動車	1	ガソリン	

(13) 産業廃棄物収集運搬実績

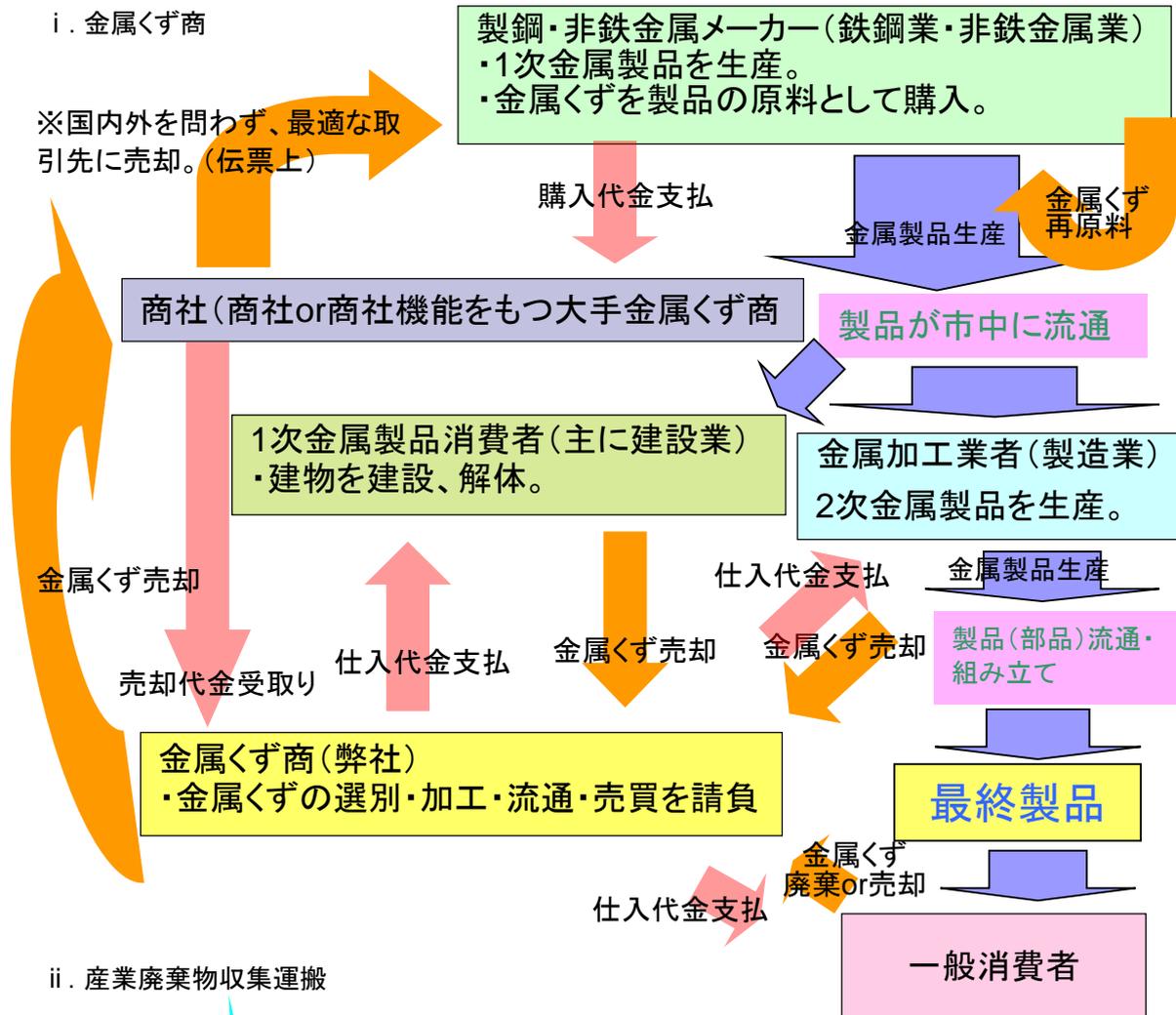
産業廃棄物(収集運搬)	単位	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
廃プラスチック/混合廃棄物	t	3.9	24.9	32.0	36.7	57.6
産業廃棄物収集運搬 合計	t	3.9	24.9	32.0	36.7	57.6

(14) 廃棄物処理料金

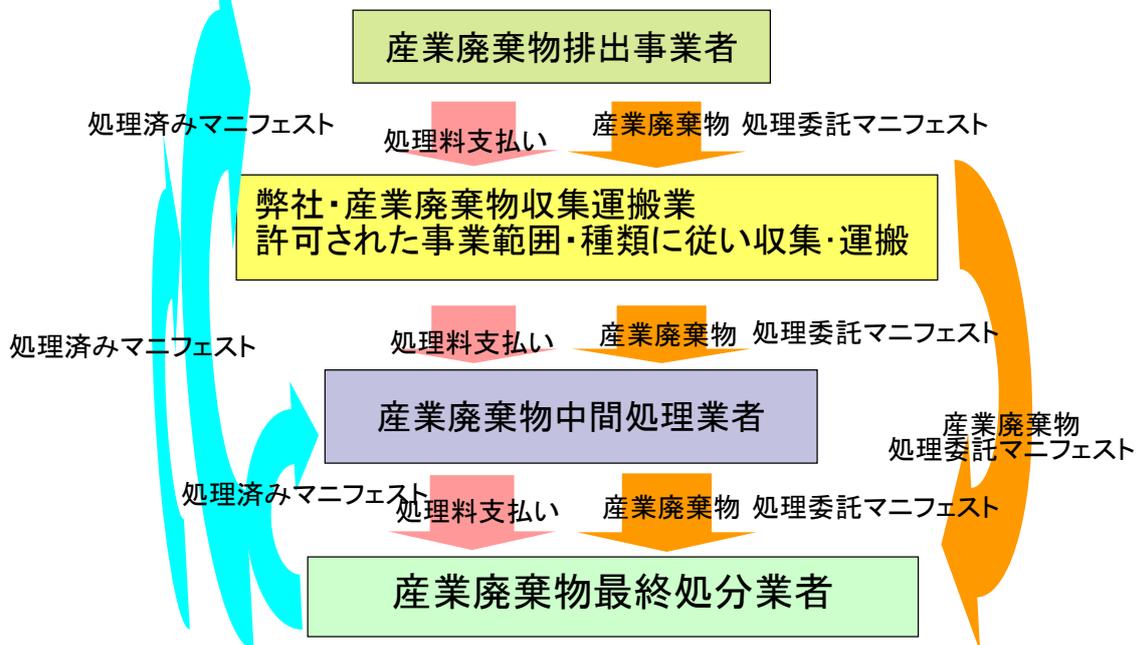
取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

(15) 事業計画及び事業概要

i. 金属くず商



ii. 産業廃棄物収集運搬



### Ⅲ. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2015年度	2016年度	基準年度 2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO <sub>2</sub>	51,448.8	57,692.6	56,891.4	64,586.2	70,732.7
廃棄物排出量	t	8,225	1,698	9,202	6,659	6,186
一般廃棄物排出量(自社)	t	0,239	0,278	0,215	0,189	0,176
一般廃棄物排出量(選別)	t	0,950	1,130	1,127	0,570	0,580
産業廃棄物排出量(自社)	t	0,000	0,000	0,060	0,050	2,120
産業廃棄物排出量(選別)	t	7,036	0,290	7,800	5,850	3,310
水使用量	m <sup>3</sup>	32.00	37.00	35.00	42.00	44.00
受託した産業廃棄物の 処理量	t	3.89	24.85	31.98	36.65	57.64

※小数点以下の処理方法につき、「目標設定書」と許容可能な極少誤差が生じています。

※電力の二酸化炭素排出係数、2015年度以降0.516kg-CO<sub>2</sub>/kWh〔関西電力(株)2013年度実績の実排出係数  
2017年度以降0.022kg-CO<sub>2</sub>/kWh〔出光プレミアムグリーンパワー(株)〕に変更。

### Ⅳ. 環境経営目標及びその実績

#### ・環境負荷削減目標

項目	年度	基準値		2019年度		2020年度	2021年度
		基準年度 (2017年度)	(目標)基準年度 比99.50%~	(実績)	(目標)基準年度 比99.25%~	(目標)基準年度 比99.00%~	
1.電力の二酸化炭素排 出量削減※1	kg-CO <sub>2</sub>	201.366	200.359	207.702	199.856	199.352	
	kWh	9,153.0	9,107.2	9,441.0	9,084.4	9,061.5	
	原単位:取扱商品1t当たり kg-CO <sub>2</sub> /t	0.029	0.028	0.033	0.028	0.028	
2.軽油の二酸化炭素排 出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	50,997.513	50,742.526	67,393.550	50,615.032	50,487.538	
	L (L)	19,432.5	19,335.3	25,680.2	19,286.8	19,238.2	
	原単位:取扱商品1t当たり kg-CO <sub>2</sub> /t	7.220	7.184	10.628	7.166	7.148	
3.ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	2,540.500	2,527.797	564.767	2,521.446	2,515.095	
	L (L)	1,094.3	1,088.8	243.3	1,086.1	1,083.3	
	原単位:取扱商品1t当たり kg-CO <sub>2</sub> /t	0.360	0.358	0.089	0.357	0.356	
4.LPGの二酸化炭素排 出量削減	kg-CO <sub>2</sub>	3,152.058	3,136.298	2,566.676	3,128.418	3,120.537	
	kg	1,050.0	1,044.8	855.0	1,042.1	1,039.5	
	原単位:全取扱商品1t当たり kg-CO <sub>2</sub> /t	0.446	0.444	0.405	0.443	0.442	
二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	56,891.437	56,606.980	70,732.695	56,464.751	56,322.523	
	原単位:取扱商品1t当たり kg-CO <sub>2</sub> /t	8.054	7.860	11.155	7.994	7.974	
5.一般廃棄物の削減 ※2	総量 (t/人)	0.215	従業員1人当り 0.043t/人以下	0.176	従業員1人当り 0.043t/人以下	従業員1人当り 0.043t/人以下	
		0.043		0.035			
6.産業廃棄物の削減 ※3	(kg/t)	0.060	商品数量1t当り 0.0085kg以下	2.120	商品数量1t当り 0.0085kg以下	商品数量1t当り 0.0085kg以下	
				0.3343			
7-1.有価物から除去廃棄物	(t)			3.89			
8.節水	(m <sup>3</sup> )	35.00	35.00	44.00	35.00	35.00	
		5名 使用量1人 換算8.0m <sup>3</sup> /人≦ 40m <sup>3</sup>	従業員7m <sup>3</sup> /人≦ 35m <sup>3</sup>	従業員7.0m <sup>3</sup> /人	従業員7m <sup>3</sup> /人≦ 35m <sup>3</sup>	従業員7m <sup>3</sup> /人≦ 35m <sup>3</sup>	
化学物質使用量の削減	使用実績なし						

※1電力の二酸化炭素排出係数、2015年度以降0.516kg-CO<sub>2</sub>/kWh〔関西電力(株)2013年度実績の実排出係数〕  
2017年度以降0.022kg-CO<sub>2</sub>/kWh〔出光プレミアムグリーンパワー(株)〕に変更。

※2 6.一般廃棄物の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

※3 7.産業廃棄物の削減の削減目標対象は、自社発生に限る。選別ダスト由来は、対象外。

・取り扱い数量目標

項目 \ 年度		2017年度	2019年度		2020年度	2021年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
9.金属屑(有価物)の取扱量(本年度目標:2017年度比102%)	トン	7,031.60	7,172.25	6,283.52	73,156.67	7,461.98
			102%	88%	104%	106%
10.受託した産業廃棄物の処理量(許可区分:収集運搬のみ)本年度目標:2017年度比102%	トン	31.98	32.62	57.64	33.26	33.90
			102%	177%	104%	106%

・地域貢献活動

項目 \ 年度		2017年度	2019年度		2020年度	2021年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
11.弊社周辺の環境美化と付近住民様の環境意識向上①清掃活動	単位:回	23	23	14	24	24
清掃活動…空き缶・ペットボトル拾い	単位:本	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ	計数管理のみ
項目 \ 年度		2017年度	2019年度		2020年度	2021年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。	単位:kg	90,039.6	91,840.2	78,326.4	92,740.7	93,641.1
			102%	85%	103%	104%

・受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮

項目 \ 年度		2019年度	2019年度		2020年度	2021年度
		(基準年度)	目標	実績	目標	目標
12. ①産業廃棄物からの有価物回収	単位:kg	-	5,000	9,220	計数、実績公表。可能な限り回収。	計数、実績公表。可能な限り回収。
②収集運搬時の飛散事故、漏洩事故0(ゼロ)	単位:件	-	0	0	0	0

V. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容	
<b>I.二酸化炭素排出量削減(全体)</b> 基準年度比99.5%	基準年度	56,891.4	kg-CO <sub>2</sub>	<p>× 目標未達成 目標4項目中 達成 2 未達成2</p> <p>評価:悪い。目標が7.86kg-CO<sub>2</sub>/tで実績が11.15kg-CO<sub>2</sub>/tで未達成。総括としての全体評価は、累計目標124.9%、目標値比141.85%で、目標未達成。前年度の目標値比125.13%より悪い結果となった。全4項目中2項目しか目標を達成しておらず、かなり厳しい結果となった。化石燃料の使用量と取扱量のバランスが課題。</p>	
原単位:取扱商品1t当たり		8.05	kg-CO <sub>2</sub> /t		
達成手段 下記の1~4による。	目標	56,607.0	kg-CO <sub>2</sub>		
原単位:取扱商品1t当たり		7.86	kg-CO <sub>2</sub> /t		
1.電力の二酸化炭素排出量削減 2.軽油の二酸化炭素排出量削減 3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減 4.LPGの二酸化炭素排出量削減	実績	70,732.7	kg-CO <sub>2</sub>		
		11.15	kg-CO <sub>2</sub> /t		
	削減量	-14,125.7	kg-CO <sub>2</sub>		
	目標対実績比率	1.25			
達成手段実践状況評価 下記の1~4による。					
<b>1.電力の二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	201.4	kg-CO <sub>2</sub>		× 目標未達成
		9,153.0	kWh		
原単位:取扱商品1t当たり		0.029	kg-CO <sub>2</sub> /t		
*電力使用量の二酸化炭素排出係数 関西電力(2013年) 0.516kg-CO <sub>2</sub> /kWh。出光プレミアムグリーンパワー0.022kg-CO <sub>2</sub> /kWh。	目標	200.4	kg-CO <sub>2</sub>	<p>評価:CO<sub>2</sub>、悪い。使用量103.6%で悪い。商品数量対の原単位評価。目標と実績の二酸化炭素排出係数0.022kg-CO<sub>2</sub>/kWhに揃っての初年度。目標が0.028kg-CO<sub>2</sub>/tで実績が0.033kg-CO<sub>2</sub>/tで未達成。基準年度に比べ、熱中症対策として、早めのエアコン使用、水分補給用の保冷库2個に増設し、電力使用量が増加。ただ現在の電力供給会社は、バイオマス発電、地熱発電などをメインにしており、二酸化炭素排出係数が極少。電力使用量は増加しているが、CO<sub>2</sub>の排出量は相対的に削減。原単位電力使用量も削減したい。</p>	
		9,107.2	kWh		
原単位:取扱商品1t当たり		0.028	kg-CO <sub>2</sub> /t		
①冷暖房の控えめな使用(冷房28℃ 暖房20℃) ②クールビズ・ウォームビズ運動	実績	207.7	kg-CO <sub>2</sub>		
		9,441.0	kWh		
原単位:取扱商品1t当たり		0.033	kg-CO <sub>2</sub> /t		
③照明・事務機器等の不使用時の電力削減。	削減量	-7.34	kg-CO <sub>2</sub>		
		-333.76	kWh		
<b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○設定温度を遵守できている。 ②…○適当な服装ができた。 ③…○必要以外消灯、電源OFFを行っている。	目標対実績比率	1.04			【次年度取り組み】 自然光、自然風の利用検討を指示。

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容	
<b>2.軽油の二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	50,997.51	kg-CO <sub>2</sub>	× 目標未達成	
		19,432.51	L (ℓ)		
原単位:取扱商品1t当たり		7.22	kg-CO <sub>2</sub> /t		
<b>エコドライブ運動展開</b> ①アイドリングストップ ②急加速の抑制  ③冷房の控えめ使用 ④増車・買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…○ 増車時、燃費マーク確認済。 ⑤…○ 車検・オイル交換、タイヤ交換等実施。	目標	50,742.53	kg-CO <sub>2</sub>	評価:悪い 原単位評価。目標が7.18kg-CO <sub>2</sub> /tで実績が10.63kg-CO <sub>2</sub> /t 目標値比148.0%、累計目標比133%で未達成。取引数量が基準年度比で、89.36%と減少に対し、軽油の消費量が通期累計目標値比148.0%の大幅増加。原因は、大型の荷役設備[油圧式バックホー(0.7m <sup>3</sup> クラス)]の稼働時間増加、フォークリフト1台の増加、鉄の電炉製鋼メーカーへの自社便直納、鉄高収益性の遠方納品。業務効率と収益性(粗利益、粗利益率ともに向上)は向上しており、経営的評価は良。ただ原単位で、増加しており、取扱数量増量と電気荷役機の導入検討や燃費効率の向上などの解決策が必要。  【次年度取り組み】燃費効率の良い車両との入れ替え検討を指示。	
		19,335.35	L (ℓ)		
		7.18	kg-CO <sub>2</sub> /t		
	実績	67,393.55	kg-CO <sub>2</sub>		
		25,680.19	L (ℓ)		
			10.63		kg-CO <sub>2</sub> /t
	削減量	-16,651.02	kg-CO <sub>2</sub>		
-6,344.84		L (ℓ)			
目標対実績比率		1.33			
<b>3.ガソリンの二酸化炭素排出量削減</b>	基準年度	2,540.50	kg-CO <sub>2</sub>	○ 目標達成	
		1,094.26	L (ℓ)		
原単位:取扱商品1t当たり		0.360	kg-CO <sub>2</sub> /t		
<b>エコドライブ運動展開</b> ①アイドリングストップ ②急加速の抑制  ③冷房の控えめ使用 ④増車・買換え時は燃費マークを優先する ⑤車両整備・点検の実施  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 出来るだけ行っている。 ③…○ 出来るだけ行っている。 ④…○ 車両の買換え時確認済。 ⑤…○ 車検・オイル交換等実施。	目標	2,527.80	kg-CO <sub>2</sub>	評価:良い。 原単位評価。目標が0.36kg-CO <sub>2</sub> /tで実績が0.09kg-CO <sub>2</sub> /tで、目標値比75%の好成績で達成。ガソリン使用フォークリフト1台が除却減少で目標達成。  【次年度取り組み】フォークリフトのエコ操業、ハイブリット車は、使用を営業活動に限定、エコモードの活用。引き続き、エコドライブ励行を指示。	
		1,088.79	L (ℓ)		
原単位:取扱商品1t当たり		0.358	kg-CO <sub>2</sub> /t		
実績	564.77	kg-CO <sub>2</sub>			
	243.26	L (ℓ)			
原単位:取扱商品1t当たり		0.09	kg-CO <sub>2</sub> /t		
削減量	1,963.03	kg-CO <sub>2</sub>			
	845.53	L (ℓ)			
目標対実績比率		0.22			

4.LPGの二酸化炭素排出量削減	基準年度	3,152.06	kg-CO <sub>2</sub>	○ 目標達成		
		1,050.00	kg			
		0.45	kg-CO <sub>2</sub> /t			
エコドライブ運動展開  ①アイドリングストップ ②急加速の抑制 ③車両整備・点検の実施  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 出来るだけ行っている。 ②…○ 速度超過警報器を装備済み。 ③…○ 特定自主検査実施済み。	目標	3,136.30	kg-CO <sub>2</sub>	基準年度 取扱数量(t)	当年度 取扱数量(t)	使用量(CO <sub>2</sub> は別表)達成状況: 達成 月次 目標達成10回。累計目標達成10回。月 次・累計目標未達成10回。 評価: 良い。個別原単位目標が0.44kg- CO <sub>2</sub> /tで同実績が0.40kg-CO <sub>2</sub> /t達成。LPG 車使用の1顧客の基準年度(2017)の取引数 量2,810トン、当年度2,380トンと基準年度 は、当年度の1.18倍、当年度は、基準年度 の0.846倍となっている。消費量は、目標値 比81.83%に減少。コロナ禍で取引数量減 少で、使用量減少。【次年度取り組み】エコ ドライブを指示。 【次年度取り組み】エコドライブを指示。
		1,044.75	kg	2,810.00	2,380.00	
		0.44	kg-CO <sub>2</sub> /t			
	実績	2,566.68	kg-CO <sub>2</sub>			
		855.00	kg			
	削減量	0.40	kg-CO <sub>2</sub> /t			
		569.62	kg-CO <sub>2</sub>			
目標対実績比率	189.75	kg				
	0.82					

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
<b>5.一般廃棄物の削減</b>	基準年度	0.215	t	○ 目標達成
		0.043	t/人(年間)	
①分別ボックスの設置 ②裏紙使用 ③古紙のリサイクル化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…○ 可燃・不燃・資源と分別。 ②…○ 再利用裏紙ファイル設置済み。 ③…○ 再生事業者へ売却。	目標	従業員1人当り 0.043t/人以下	t	評価:優良。すべての月次目標達成。金属スクラップ選別由来一廃と徹底して分別管理を行った。紙の梱包材や古紙に関しては、集積場を設け、一定量になると、古紙問屋で資源として売却した。排出抑制策の継続を指示。 【次年度取り組み】削減に関するアイデアを募ることとした。  (取り組み計画外の取り組み) 商品(金属スクラップからの選別ダスト発生)からの発生量は、当年度は、前年度から減少。再資源化率は、年間で51.72%と前年から悪化。ただ、一廃の定義が厳しくなり、産廃へ回り、そちらが増加しているの、判断が難しい。
	実績	0.176	t	
	実績(1人換算)	0.035	t/人(年間)	
	削減量	0.04	t	
	削減量(1人換算)	0.01	t/人(年間)	
目標対実績比率	0.819			
<b>6.産業廃棄物の削減</b>	基準年度	0.06	t	× 目標未達成
	目標	商品数量1t 当り0.0085kg 以下	kg/t	評価:やや悪い。自社由来の産業廃棄物発生量は、全12か月間で、2.12t発生し、増加となった。これは、破損で不要となったコンクリート擁壁(2.1t)を解体し、コンクリート再生処理業者に処理委託した為。その他は、ごく少量で、金属スクラップ選別由来の産業廃棄物と徹底して分別している。 【次年度取り組み】継続した努力を指示。  (取り組み計画外の取り組み) 商品(金属スクラップからの選別ダスト発生)管理・削減目標ではない項目であるが、廃棄物を排出しないという意志で活動を行っているが、有価物であった選別ダストが、輸入禁止により、当期はすべて産廃となり、再資源化率は0%となった。
	実績	0.3343	kg/t	
	削減量	-0.15433	kg/t	
	目標対実績比率	0.39		
<b>7.節水</b>	基準年度	35.00	m <sup>3</sup>	○ 目標達成
		11.67	m <sup>3</sup> /人	
①洗車頻度と使用水量の管理 ②手洗い水量の適正化  <b>上記 達成手段実践状況評価</b> ①…△ 洗車は、ほとんど行ってない。給油時、スタンドで簡易洗車をしている。 ②…○ 手洗い時の水の出しっ放しをしないよう指示教育した。	目標	35.00	m <sup>3</sup>	評価:良い。月次は6回中5回 目標達成。累計が、未達成となったのは、社員の雇入れと退職が、頻繁にあったため、社員数の計数のアヤ。従来通り社内での洗い物や手洗い時にも、皆が節水意識を持って行っており、とても良い。 【次年度取り組み】継続した削減行動を指 ※最終月末の社員数で、計算しますと、左記のとおり目標未達成になりますが、2ヶ月ごとの水道支払い月の社員数で計算しますと達成しています。
		7.40	m <sup>3</sup> /人	
	実績	44.00	m <sup>3</sup>	
		7.33	m <sup>3</sup> /人	
	削減量	-9.00	m <sup>3</sup>	
目標対実績比率	1.26			
		0.07	m <sup>3</sup> /人	
		1.26		
		0.99		

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
<b>8.有価物の取り扱い量増加</b>	基準年度	7,031.60	t (トン)	× 目標未達成
①新規顧客開拓	目標	7,172.25	t (トン)	評価:悪い。通期累計目標値比87.60%。新型コロナウイルス感染、同防止措置の影響で、3月後半から、取扱量が漸減。今期中の回復は無かった。受託運搬量も、64tと前年度の208tの30%に低下。すべては新型コロナウイルスが原因。
②既存顧客への新提案				
③価格競争力の強化	実績	6,283.52	t (トン)	
④情報収集の強化				
<b>上記 達成手段実践状況評価</b>	増加量	-888.73	t (トン)	【次年度取り組み】法人取引で、安定的な仕入れを確保し、人員増員で、受託運搬量も増加させるよう社内体制を整える。
①…○仕入顧客登録数前期末比純増数231件 ②…○ 新規取扱品目を案内した。 ③…○ 新規売上先開拓。 ④…○ 海外金属相場情報、国内相場情報取得ルートを確保。	目標対実績比率	0.88		
<b>9.産業廃棄物の取扱量増加</b>	基準年度	31.98	t (トン)	○ 目標達成
①新規顧客開拓	目標	32.62	t (トン)	評価:優良。当年度は、既存定期収集運搬の個別数量、回数が増え、目標の約176%の取扱量となり目標達成。  【次年度取り組み】引き続き、金属スクラップ取引のある取引先を重点的に営業活動を行う
②既存顧客への新提案				
③価格競争力の強化	実績	57.64	t (トン)	
④情報収集の強化				
<b>上記 達成手段実践状況評価</b>	増加量	25.02	t (トン)	
①…×新規契約数前期末比純増数0件 ②…○ プラスチック廃棄物に関して、提案を行った。 ③…○ 金属スクラップとセットの取引には価格の割引きを行った。 ④…○ 関連省庁、業界団体のHPから情報収集を行なっている。	目標対実績比率	1.77		
<b>10.地域貢献活動</b>	基準年度	23	回	× 目標未達成
		計数管理のみ	本	
①清掃活動。	目標	23	回	清掃活動・評価:悪い。実施回数は、目標23回に、当期14回で目標未達成。社員退職で、繁忙となり、全員での一斉清掃活動が実施出来なくなった。空き缶数は、清掃が行き届くことにより、投棄する人が少なくなり、落ちている数が激減し、目標未達成となった。ただ、本来この方が良い。 【次年度取り組み】引き続き、情報提供、発信に対し、地域からのレスポンスを受け取れるコミュニケーション手段を模索するよう指示。
投棄された空き缶・ゴミ拾い。				
実施回数と回収量	実績	14	回	
<b>上記 達成手段実践状況評価</b>	対目標量	-9	回	
①…△ 全社一斉清掃活動が出来ない代わりに日常の清掃を行うことが出来た。				計数管理のみ

取り組み計画	達成状況		単位	評価 結果と次年度の取組内容
<b>②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。</b> 目標: 買い受け数量を前年度比2%増加させる。 主要買い受け品目: アルミ缶・金属製不用品 <b>上記 達成手段実践状況評価</b>  ①…○ 自治会・子供会、伊丹市近郊在住の方から幅広い買取を行うことが出来た。	基準年度	90,039.55	kg	× 目標未達成
	目標	91,840.20	kg	買受数量…評価: 少し悪い。買い入れは、毎月行えている。月次で、2回達成。ポイントカード会員に向けたEメール送信を月に3回「5の付く日」に行い、SNSの活用としてFBの投稿更新、google広告、同マップの改善を行った。  <b>【次年度取り組み】</b> 引き続き、地域に根付いた商売をする施策を取るよう指示。広報活動や地域行事への参画を指示。
	実績	78,326.40	kg	
	対目標量	-13,513.80	kg	
	目標対実績比率	0.85		

<b>11. 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮</b> 1) 産業廃棄物からの有価物回収 ① 排出事業者から金属有価物の選別収集の承認を得る。…○ ② 金属くず商の能力を存分に発揮する。…○	基準年度	-	kg	○ 目標達成
	目標	5,000.0	kg	収集運搬受任時に、排出事業者から金属有価物の選別収集の承認を得て、金属有価物となる物品に関しては、リサイクル資源処理を行った。
	実績	9,220.0	kg	
	目標対実績比率	1.84		
2) 収集運搬時の飛散事故、漏洩事故0(ゼロ)  ① シート、ネットによる養生確実実施。…○ ② 容器の密閉、転倒防止対策確実実施。…○	基準年度	-	件	○ 目標達成
	目標	0	件	環境汚染につながる収集運搬時の飛散事故、漏洩事故0(ゼロ)を目標に業務と取り組みを行い、達成した。
	実績	0	件	
	目標対実績比率	0		

## VI. 環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

環境法規制等の名称	要求事項(事業者の義務・責務)	評価方法	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正管理、処理委託。	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
	産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)		○ 適合
廃棄物処理法 (収集・運搬業務)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事業者、処理委託先、報告等)	書類及び業務内容、事業所を確認。	○ 適合
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上) 第21条の4	防災設備業者による検査実施。2年毎1回	○ 適合
自動車から排出される窒素化合物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx・PM法)	自動車NOx・PM法 適合車の使用。	車検証確認。	○ 適合
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証参照。大阪府生活環境の保全等に関する条例第40条の15、16	車検証確認。	○ 適合
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	第1章第5条(自動車の所有者の責務) 第2章第8条(使用済自動車の引渡し義務) 第4章第73条(再資源化預託金等の預託義務)	車検証、リサイクル券確認。	○ 適合
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	特定家庭用機器再商品化法 第2章第6条(事業者及び消費者の責務)	廃棄の有無	○ 廃棄実績あり。 リサイクル料支払済
フロン排出抑制法 改正フロン排出抑制法が令和2年4月1日より施行。	廃棄時、修理時の ・フロン類の適切な処理 ・回収・破壊の工程の確認(引取り・破壊証明書) ・業務用 空調設備の点検義務。	廃棄の有無	○ 廃棄実績なし。
遵守評価: ○…適合 違反なし △…改善後、適合(一部問題あり) ×…不適合 重大な違反あり			

### □遵守評価についてのコメント

当年度において、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

### □訴訟などの有無

本活動期間中はもとより、過去3年間何人からも訴訟等による意義申し立てはありません。

### □外部からの苦情

本活動期間中において、外部からの苦情、申し立て 0件。

## Ⅶ. 代表者による全体の評価と見直し・指示

【総括】大・中・小項目合わせ、全12項目中、達成が5項目、未達成が7項目となり、前年度より悪化し、全体評価は悪い。① I. CO2の全体排出量は、目標が8.01kg-CO2/tで実績が11.15kg-CO2/tで未達成。総括としての全体評価は、目標値比139.20%で、前年度同様、未達成。当項目5項目中、ガソリン、LPGの3項目で目標達成、電気、軽油は未達成で前年度より悪化。I.1-1電力消費CO2は、電力は、目標と実績の二酸化炭素排出係数が0.022kg-CO2/kWhの同じになっての初年度。累計目標値を若干上回り、目標未達成。I.2~5化石燃料(以下、すべて原単位比較)については、2.軽油目標が7.18kg-CO2/tで実績が10.63kg-CO2/t 目標値比148.0%で上回り、目標未達成。3.ガソリンは、フォークリフト1台前減車、ハイブリット車使用抑制により、目標が0.36kg-CO2/tで実績が0.09kg-CO2/tで、目標値比75%の好成績で達成。4.LPGは、目標が0.44kg-CO2/tで実績が0.40kg-CO2/tで達成。

②廃棄物全般は、5.一廃が達成、6.産廃は、特別排出で未達成。商品の取り扱いに準じて発生する一般・産業廃棄物の再資源有価物化は、一廃51.72%に下降、廃プラ再生不可で産廃0%。③7.節水は、目標単位を対従業員数で、達成。④8.有価物取扱量は目標値比87.60%で目標未達成。コロナ禍で、4月以降仕入取引先の取引量減少。金属スクラップ受託運搬量も、64tと前年度の208tの30%に低下。仕入顧客登録数前期末比純増数231件と前年度より増加数減少。取引単位は、店頭買取がさらに小口化している。9.産廃収集運搬量は、既存の定期引取収集量が増え、大幅達成。

⑤10.地域貢献活動は、1)清掃活動、人員不足で実施が滞り未達成。2)買受量は、コロナ禍と取引小口化で、未達成。11.受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮は、廃棄物からの有価物収集が達成、飛散・漏洩事故0件で達成。環境活動の結果は、前年度よりやや悪い成績となった。コロナ禍が4月以降、本格化し、原単位の基準となる取扱い数量が激減し、環境目標達成の基準が大きく崩れ、未達成項目が増えた。経営面では、取扱量の減少に耐えながら、電炉直納と利幅大の遠方納品による利幅拡大を進展させ、何とか黒字を確保した。

来期目標として、コロナ禍の改善を前提として、固定の法人顧客獲得を目指し、効率的な商品の取り扱い数量の増量に挑戦し、原単位環境負荷の低減によるコストダウンも実現させ、得た収益を環境投資にも振り分け、環境、経営、持続可能性のバランスのとれた全体解を目指す所存である。

環境経営方針、環境経営目標・環境経営計画、環境経営システムの各要素の変更の必要性については、(以下、必要性有無で表す)

環境経営方針…有 今期、ガイドライン2017年度版に移行し、「環境経営方針」に名称変更し、内容も一部見直しを行い、方針をより明確にした。

環境経営目標・環境経営計画…有

①二酸化炭素の排出量削減…有 原単位を粗利益額とすることを検討。

②廃棄物の削減…有 処理コストの同時把握を検討。

③節水…無

④有価物の取扱い量増加…有 量も必要だが、質の向上も加味されるべきで、原単位を粗利益額とすることを検討。

④"産業廃棄物の取扱い量増加…無

⑤地域貢献活動…無 買受数量…無

⑥環境関連法規制等の順守状況…無

⑦緊急事態想定結果/訓練記録…無

実施体制…有 社員から志願者を募り、環境経営活動に参加を促す。

以上の見直しをもって、環境目標と経営目標の1本化を実現する。

2021年3月1日

取締役社長

金田 大地

## Ⅷ. その他の取り組みを紹介

① 社として、SDGsへの参画を決めました。当社の出来ることから取り組みます。



エコアクション21に基づく、環境経営によって、下記のゴールとターゲットの達成に挑戦します。

12つくる責任使う責任

5. 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

13気候変動に具体的な対策を CO2排出量削減

15陸の豊かさを守ろう 陸地の環境保全。

以上